

命に国境をつくらない

中沢中学校 二年 田中 希美

今年の夏に行われた参議院選挙で、とりわけ目立っていた政党が掲げていたキャッチコピーが「日本人ファースト」であった。この政党の意向はどうであれ、そのキャッチコピーから私は「日本人でないものは後回し」という意見を感じてしまった。自分達さえ幸せならいいと考える人が私達の代表になってしまったように、悲しくて、空恐ろしい。そんな風に思ったのには訳がある。ちょうどその頃、読書感想文を書くために何冊か本を読んでいたのだが、中の一冊が日本に暮らすクルド人難民をえがいていたのだ。「マイスモールランド」という映画を小説化した本だ。今まで一度も難民について考えた事がなかった。日本に難民の人々が居ることも、クルド人が世界最大の国を持たない民族だということも、私は何一つ知らなかった。この本はサリーヤという幼い頃に難民として来日し、現在は高校生になった少女の視点でえがかれている。

日本に暮らすクルド人難民の希望になれるように、教師になるために努力しているのだが、突然、国の決定により難民申請が不認定となってしまう。難民申請中という立場から仮放免という立場になつてしまうのだ。仮放免とは入管に收容される人が条件付きで外で生活することができる制度らしいが、仮放免になると、就労の禁止、居住地から県外への無許可の外出は禁止、健康保険が自費になり、生活保護も受けられない。この状態でどう生活しろというのか真意を疑いたくなる。日本から追い出そうとしているようにしか思えない。難民の人達は、国に帰ったら命の保障がない人達なのに。

祖国に追われ、一大決心をしてようやく辿り着いた日本で、懸命に生きている人々を更に追いつめるかのような「日本人ファースト」という言葉に、だから私は空恐ろしくなったのだ。

日本は残念なことに、難民の受け入れに対して非常に厳しい国である。難民支援協会の方

サイトには、世界で類をみない極めて少ない
難民認定数とある。二〇二四年の難民申請を
した者は一万二千三百七十三人であるのに対
し、認定されたのはたったの百九十人のこ
とだ。ちなみに難民とは、「人種、宗教、国
籍もしくは特定の社会的集団の構成員である
こと又は政治的意見を理由に、迫害を受ける
おそれがあるという十分に理由のある恐怖を
有する人々で国籍国の保護を受けることがで
きない人々」と定義されている。この定義を
満たさない難民の申請者がいるだろうか。こ
の定義を見る限り、どこで不認定になるのか
が分からない。例えば「迫害」と定義にある
がどこまで傷つけられたら「迫害」になるの
か。「十分に理由のある恐怖」はどう説明し、
どう証明するのか。そして「国籍国の保護を
受けることができない」なんて経験のない人
々が、難民の人々の未来を握っているのだ。
難民の人々の立場になって、心のある判定が
なされる日本になるようにするにはどうすれ
ばいいのだろう。そもそも日本には難民をよ

り積極的に受け入れるという政治的な意志が十分にないという。なぜか。政治を動かすのは私達国民の意志である。つまり私達の意識の中に難民の問題意識が薄いのである。私達の無関心が、難民を苦しめているのである。ただ、「偽装難民」と呼ばれる難民でない人が難民申請を行うケースもあるそうだ。一部の留学生や技能実習生が、日本で働き続ける為に難民申請をするらしい。難民申請をして六カ月後から就労が認められ、職種や労働時間の制限もないので彼らにとっては法の抜け道となっているそうだ。とにかく「偽装難民」がいるという事も、難民の認定が厳しい理由の一つであろう。しかし、難民として国に帰れない人々の生き延びる手段や機会を奪うことが許されるのはおかしくないだろうか。肌の色が違っても、言語が違っても、宗教が違っても、考え方が違っても、私達は地球上の運命共同体であり、その命の価値はみんな変わらないと私は信じたい。一人でも多くの人々にこの難民の問題に関心を持ってもら

いたい。難民が増えると、日本の文化や慣習が乱されたり、治安の悪化を不安視する声もあると思う。けれど、縄文時代から日本は独自の文化だけをはぐくんできたわけではない。私達はもつとしなやかだった。これまでも色々な民族の色々な考えを持っている人々がお互いをリスpektし合って交流し、新しい文化が作られてきたのでは？それが「今」の日本である。私達が「日本独自」と思っている「今」はとうに他文化を取り入れ自分達好みにしてきた結果だろう。私達は助け合い、共に成長できると信じている。

最後に強く提案したい。「マイスマーランド」を学校で上映して欲しい。上映が無理なら、本を読むように勧めて欲しい。難民について考える時間が少なすぎると思う。私達の関心こそ、政治を動かすのだから。